

ある朝の「ひらめき」

「なるほど、そういう考えもあるね。」

校内研修の部会（指導案検討会）では、私はいつも進行役となって話し合いを進めている。

話し合いの途中で道徳の時間における児童の思考の流れやその深さが話題になった。

「やっぱり、子どもたちが『ずれ』を意識して考えないと深まらないんじゃないかな。」

『ずれ』とは、児童の実際の行動（道徳的実践力）と道徳的価値との『ずれ』のことである。

参加していた部員は皆、そのことを考え込み、話し合いが進まない状況であった。

何日前か・・・

「そうか、こう考えればいいのかー！」
早朝起きた時、ひらめいた！

飛び起きてすぐに、自分のノートに『ずれ』に関する児童の思考の流れ図をメモした。

以前から疑問に思っていたことがここで解消され、整理することができた。

さっそくその日、その『ずれ』を意識した道徳の授業を実践してみた。

「なるほど、このこと（ずれ）抜きには授業は成り立たないだろう。」

実際に授業をやってみて実感した。



私は部会の中で児童の意識の『ずれ』の大切さを図を用いて説明してみた。すると部員から

「そうね。そう考えると分かりやすいね。」

「やっぱり大切なんだね。」

話し合いも活気付いてきた。

「研修主任が言うのだから・・・。」と言って、いつでも納得してもらえらるとは限らない。

むしろ納得してもらえない方が断然多い。

ただ、以前から疑問に思ったことや深く考えたいことを自身のノートにメモしておいたり、実際に授業実践を先にしたりすることで、自分自身の考えが整理され、提案の説得力が増すのは事実かもしれない。